

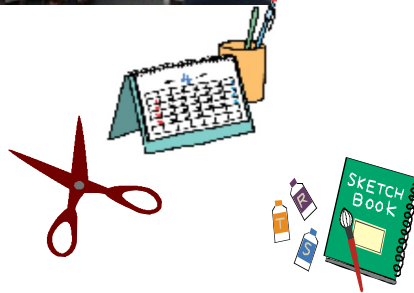
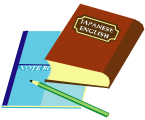
## 波紋



Ripple

No. 327号

## 文紙メッセ2012に出展しました!!



8月7日(火)～8月8日(水)二日間、マイドーム大阪にて文紙メッセ2012が開催されました。初日は先着1000名に文具セットが配布されることも有り、開会式前から親子連れの来場者で通路を埋めつくされていました。今回、インターネット販売事業が発足され一般ユーザー様への拡販を目的に出展させて頂きました。



最近よく思うことのひとつが、机の周りの状態と自分の頭の中は一致するということです。時間・手間の掛かる仕事に関わっているときにそれらの書類が机に積まれた状態になっていました。片付けようにもいつ何時、その仕事に関係する事態が発生するかわからないということではなかなか整理できず、その上にさらに別の書類が積まれるという有様。(常に片付ける癖が付いていないということですが) 思い返せば頭の中が混乱している場合、目に見える結果として自分の身の回りが散らかっていることがほとんどだと思います。整理が出来ないと言うことは自分の中で何が要る、何が要らない、という「優先順位」が付けれられていない状態。まず落ち着いて身の回りを片付けることで最初にやるべき事が見えてくると思います。目の前からモノが無くなることで、気分も思考もよりスッキリとするでしょう。今年2012年、来年で私は森松入社15年になります。15年のうち3年半は海外でしたが、15年という年月を振り返ると光陰矢のごとし、本当にあっという間です。仕事において自分自身で出来ることがまだまだ少ない!と感じています。15年前に自分が思い描いていた将来の自分とはまだまだ隔たりがあります。次の5年、10年で自分自身がどれだけ成長できるかは目標設定次第。まず商社としての機能、メーカーとしての機能をより高いレベルでお客様の要望を満たすこと、またお客様の半歩先を読んだサービスを提供することが今後も森松が必要とされる企業であり続けるためのひとつの条件です。そのために私自身の実行力、スピードをどんどん上げて行かねば時間が何年有っても足りません。これらのことは特別なことでは無く、普段からの仕事に於いて「今・ここ・私」を常に考えることで磨かれていくことです。5年後、10年後に変わっていないのは「体重」と「髪の毛」だけにしておきたいですね!

気が付けば15年...!

森 直樹



## オフのひとつとき



伊東 郁二 (特販部)

今年22歳になる長女の里奈が小学6年生の時に、初めて学校の部活以外にクラブチームのミニバスに入った。その後、長男の義弥が小学5年生から、次女の里歩が小学3年生からミニバスを始めた。休日は、チームの子供たちを試合会場まで送迎し、観戦をする様になり、伊東家の休日の生活リズムが大きく変わり始めた。里奈は、中学からの6年間をバレーボールに、義弥と里歩は、中学からの6年間をバスケットボールに専念したので、家族が一丸となり休日はサポートした。部活の試合・クラブチームの試合と、それぞれ3人の試合会場を歩き来して観戦したことが今は懐かしい。今年の6月、里歩が高校3年生の最後の大会で敗退し、引退と共にこの生活が終了した。こんな休日の生活リズムが丸10年間続いたので、この3か月間の休日は「ポカ〜ン」と穴が空いた様である。ミニバスチーム・ジュニアチーム・高校生と、試合会場もどんどん遠くなっていた。その分、旅行気分でいろいろな場所へ行かせてもらった。朝は、6時〜7時に出発して帰宅が夜、1日仕事であった。泊りもあった。バスケットの場合、試合と試合との間が、1時間30分〜3時間ほど空く。その間に、車の中で企画書や資料作り・納期がない仕事をしたことも、今は懐かしく感じるが、それなりに充実していた。こんな生活リズムが終了したのは寂しく残念ではあるが、子供たちも、1人・2人と社会人として飛び立っている、新たな世界で頑張っている。私も10年間の生活リズムをチェンジし、新たな休日の過ごし方をしっかりと考えなければならぬ。夫婦で旅行・健康ランドでのんびりリフレッシュ・・・。将来は、孫を連れて公園・・・なんてことにもなるのだろうか。

## 今月のおすすめ



小原 龍一 (営業部)

暑い日が続いておりますが皆さんはいかがお過ごしでしょうか。今年のお盆は大型連休もあつて私は家族で海水浴をはじめ息子が大好きな三河湾に位置するラグーナ蒲郡に行って参りました。ラグーナ蒲郡は今年で10周年を迎え、様々なイベントで来客を楽しませてくれます。4歳になった息子がラグーナ蒲郡を好きでやまない理由は戦隊ヒーローのイベントが定期的に企画されているからです。連休の後半にショーが実施され真夏日にも関わらず会場には我々と同じ気持ちで息子に「すてきな夏の思い出」をつくってもらうために、多くの家族連れが会場を埋め尽くしていました。戦隊ヒーローの公演は約30分でしたが、戦隊ヒーローが出てくると息子は大声で叫び興奮状態となって飛び跳ねて喜んでいました。またヒーローの掛け声に合わせ呼応する息子の姿に改めて「連れて来て良かった」と感じる瞬間でもありました。毎回行く度に感じるのが、ラグーナ近辺の空が通常よりも明るく澄み通っていること、きっと日光が海に反射されより綺麗に感じるのかも知れません。ラグーナ蒲郡の年間来場者数は年間300万人以上と言われ蒲郡最大の集客施設で息子のお気に入りのテーマパーク「ラグナシア」や私たちも退屈しないグルメシヨンプイングマーケット「ファステイバルマーケット」などで存分に楽しめますので大変オススメです。今年にはラグーナ蒲郡だけでなく、ナガシマスパーランド(ジャンボ海水プール)にも行く予定をしておりましたが、連休前半は雨天が続き実家と自宅の往復ばかりしていました。来年こそは雨天行かなかった長島スパーランドに息子を引き連れて、素敵な思い出を作ってあげたいです。



7月31日（月）～8月10日（金）の2週間、上海から、文文こと呉懿文さんが来社し、研修を行いました。日本語の勉強をしてからわずか2年しかたっていないそうですが、早朝会議などでパワーポイントを駆使し日本語で発表までしてくれました。とにかくすごい！  
僕では2年で外国語は絶対覚えられないと思います。そんな文文が波紋の記事を書ってくれました～！！

伊東義弥

## 森松の実習について

呉懿文



二週間の実習があつと言う間に終わりました。皆さんのおかげで、私は色な経験をすることができました。初めての朝会、包装作業、初給料、あすなる会、森松武将隊。短い二週間だけど、忘れられない良い思い出が沢山できました。

まずは、幹雄じちゃんから書き始めたいと思います。幹雄じちゃんはとても面白い方で、毎日英語を喋っています。「ok」はおじちゃんの口癖です。また、beatlesやcarpenter、tom johnsはおじちゃんのアイドルです。初めて名古屋に着いた日には、私はおじちゃんの運転しながら、大きな声で tom johnsの歌を歌っている様子に驚きました。兄弟なのに、会長と凄くイメージが違っていることを感じました。二週間の間に、幹雄じちゃんに連れて、色々な美味しい料理やデザートを食べました。おじちゃんは本当に美食家と言えるでしょう。平日の晩ご飯はおじちゃんと一緒に食べました。おじちゃんは2キロ太ったと言いました。良かったですね。

森松の実習の過程は楽しかったです。週報の言うどおり、最初は足が痛かったけど、だんだん慣れてきました。第二週は無事で過ごしました。第二週は、朝は要工場で社長の手伝い、午後は本社で同じの包装作業です。一番役に立つと感じているのは、トイレの掃除です。社長は親切で、トイレの掃除を教えてくださいました。上海の家のトイレは自分で掃除するけれども、こんなに真剣に掃除したことはなかった。「掃除から気づきを学び、仕事に活かす」という教訓を心に覚えていきます。

森松は本当に良い会社だと思います。皆さんが勉強できる朝会の発表、一日元気が出る発声練習とラジオ体操、日程が確認できるサイボウズの日報。モリオン語録と森松マン精神を読んでいるうちに、森松の特色の会社文化を実感しました。森松は自分なりに社会の舞台で活躍しています。そして、森松は社員にとって、頼り出来る会社ではないでしょうか？皆さんが朝早く会社来て、夜遅くまで仕事し続けて、頑張っている様子に感心しています。私も、これからの勉強も仕事も皆さんを手本として、頑張りたいと思っています。

皆さんに感謝な気持ちがいっぱいです。色々教えてくださいまして、ありがとうございます。まだ経験が浅い学生ですが、迷惑をかけて、申し訳ございません。先輩の話の中から、自分の未来をチャレンジする勇氣を見つけました。「絆」と言う言葉は、日本語を学ぶ時に、まだ本当の意味はわからないで、今はやっと理解できました。皆さんとお会いできて、本当に嬉しいかけりです。こんなに親切で、真面目な社員たちがいるこそ、森松は順調に発展しつつあるのではないのでしょうか？大家族みたいに、困った時にお互いに助け合っていて、嬉しいことを分かち合っていて、厳しいお父さんのように教えてくださる会長さんがいるから、皆さんが成長している。私もこれから、森松みたいな会社に入りたいです。給料の問題だけでなく、自分の各方面の成長に注視する会社に入りたいです。（全文修正なし）

# あの頃の森松

松井 宣和 (製造部)



あの頃の森松ですか・・・当時は日本経済が絶好調の時に入社させてもらいました。新しく本社屋が出来上がったのを覚えています。最初は荷受の受け取り担当で、毎朝会社に着くと森松前の路上にトラックが並んでいました。多いときは3台ほどのトラックが荷物降ろし待ち。それだけトラックがある日は原反○○本越えとかよくありました。それから路線便の西濃運輸や名鉄運輸、佐川急便などが往来し、忙しくて対応できないと、「いつになったら受け取りするんだあー」威勢をあげる運転手もいて、そういう運転手には私も「お前からは受け取らん！持つて帰れ」と何度か言い返したこともありました。ひととおり原反入れ終わると、デスクマットの出荷の段取りがありました。テナント倉庫の中はとても暑くてサウナ状態で大変でした。荷受の数が多いと出来る上がる製品も多くていつも路上に仮置き。いざしまおうとパレット積みめのデスクマットが、テナント倉庫に入りきらず作業場に入れ戻しになることが多かったです。さらに下手な運転でのフォークリフトでデスクマットに穴あけてしまい余計に迷惑かけたときもありました。とにかく忙しくて入社したばかりで身体がついていかず、毎日疲れ果てたことを思い出します。帰りのバスの揺れ具合が最高に気持ち良く居眠りしてしまいバスの運転手さんに起こされたい(終点がもより駅)こともありました。今ではいい思い出になっていきます。

# 9月の予定

1日 (土)	第1土曜日休み
8日 (土)	第2土曜日休み
14日 (金)	安井 浩二さん誕生日
15日 (土)	第3土曜日休み
17日 (月)	敬老の日
22日 (土)	第4土曜日休み
24日 (月)	CS向上会議 14時10分～15時 経営会議 15時10分～16時

## 第20回 元気のでる森松展 開催決定しました!!

開催日時: 10月4、5日

お誘い合わせの上、ぜひご来場下さいますよう、よろしく願い致します。当日は社員一同ご来場をお待ちしております。

森松展実行委員会

森松株式会社 社内報

No: 327号

平成24年8月28日発行

森松HP

<http://www.morimatsu.net/>

オーダーマットのご注文はモーリンモールで!

<http://morlinmall.jp/index.html>

編集者

大石 耕平 松井 宣和

伊東 義弥 小坂 美香

小原 龍一 伊藤 雅典

創刊号: 1985年7月

MORLIN